

## 事業者作成用

## 認定革新的データ産業活用計画の概要

## 1. 認定革新的データ産業活用事業者の名称

株式会社〇〇

## 2. 認定革新的データ産業活用計画の概要（以下の記載例を参考に作成すること。）

- (例1) 各生産ラインの設備がネットワークに繋がり、受注データと製造データを連携・分析し、生産効率を最適化することで、新たに多品種少量生産を実現。顧客からの注文データが入力されると、ネットワークで接続された各生産ラインが各製品について必要な組み立て方法や作業工程を識別し、●種類の製品の作り分けを自動最適化。少量発注の大量生産が可能となることで、生産性を最大●%向上。
- (例2) ▲の製造工程において、顧客からの発注内容や、各部品のデータ、部品の組立工程等の各種データを一体的に連携させ、組立工程を自動的に最適化するシステムを導入。▲種類以上にわたる多品種の▲の生産を効率化。ホームページから顧客の発注を受けると、必要な部品や、組み立て工程が自動的に整理されて、各種装置・作業員に対して的確な指示がなされるため、複雑な作業を要する▲でも短時間での製造が可能となり、平均して▲週間程度必要だった納期が○時間程度に短縮。
- (例3) カメラやセンサー等により得られた■の素材・形状のデータを分析し、危険物を自動的に排除するロボットハンドを制御するAIを導入。これにより、人の手を使わずに危険物が自動的に分別されるため、作業員を危険作業から解放（作業人員数約■%削減）するとともに、処理量を約■倍に向上させることを実現。また、廃棄物に関するこれらのデータをAIが学習するため、データの蓄積に伴い、危険物分別の速度と精度が更に向上していく見込み。
- (例4) 国内全生産拠点のシステム統合より、データの一元化を実現し、IoT、ビッグデータ分析などの技術を効果的に活用できるデータ連携基盤を構築。生産拠点間のデータ連携により、予防保全の高度化等を進めることで、生産コストの★%の削減、★週間の納期短縮、★などの品質向上を実現した。
- (例5) ホールディングス会社制移行に伴い、不効率に各社分散していた全てのITリソースを集約し、データ連携基盤を構築。これにより、グループ経営の見える化（経営判断の高度化）、生産・販売プロセス等の全体最適化、グローバル対応を実現。これらの取組により、◆年間で計◆億円の収支改善見込み。また、当該基盤を活用し、量販店のPOSデータをAI分析することで高度需要予測を実施。社内の生産や出荷調整を最適化することで、量販チェーンの売上効率を最大化。

## (記載要領)

本資料の内容は公表されるので、認定革新的データ産業活用事業者の事業上の秘密に該当する部分については、これを公表の対象として記載しない。